

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌 第111号 平成27年2月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

## 季節性アレルギー性結膜炎に対する初期療法

眼科部長 丹羽 慶子



スギ花粉症は、国民の3割が罹患しているといわれ、近年さらに増加傾向です。夏の気候により、年によってスギ花粉飛散量に差がありますが、今年は、平年よりやや多め、少なかった昨年の2倍と予想されています。

アレルギー性結膜炎の治療は、ヒスタミン H1受容体拮抗作用やケミカルメディエーター遊離抑制作用をもつ抗アレルギー点眼薬をベース治療薬として使用し、重症例ではステロイド点眼薬を追加します。

花粉症に対する初期療法はもともと、2005年鼻アレルギー診療ガイドラインで示された治療法で、眼科においても2010年アレルギー性結膜疾患診療ガイドライン改訂時に追加されました。花粉飛散時期の症状を抑制することを目的とし、花粉飛散開始時期の約2週間前、または少しでも症状が現れたら抗アレルギー剤の点眼を開始する方法です。初期療法には、症状の発現を遅らせる、症状を軽減させる、症状が治まるのを早める、などのメリットがあり、これらにより、薬剤の種類、量を減らすこともできます。

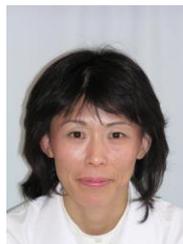
初期療法を実施した121人を対象にしたアンケートでは、30.6%が「非常に効果があった」、57%が「やや効果があった」、12.4%が「変わらなかった」、と答え、87.6%に有効だったといえました。また、血清スギ抗原特異的IgE高値の患者12例24眼を対象に、飛散予定日から2週間前から右眼に抗アレルギー点眼液を、左眼に人工涙液を点眼したところ、飛散日、飛散2週間後ともに、右眼は、掻痒感、充血、涙液、眼脂、異物感、すべての自覚症状スコアで統計学的有意差をもって抑制したとの報告があります。同様に、11名22眼を対象に、片眼に初期療法を施行し、他眼をコントロール眼としたところ、自覚症状スコアに大きな差があり、また初期療法施行眼の涙液中のケミカルメディエーター濃度はコントロール眼と比較して有意に減少していたとのことです。

実際、当院でも昨年、毎年症状がでる患者さんに初期療法をすすめたところ、いつもより症状が軽くすんだとの声がかかれました。また、ステロイド点眼の併用例も少なかった印象です。

今年は、例年よりやや早く、飛散予定日は2月初旬といわれています。この連携ニュースが届く頃には、すでに飛散は開始しているかと思いますが、来年にむけて、重症の花粉症の方に啓蒙していただけたら、と思います。

# 思春期の子供たち

小児科部長 桑原 里美



今年は春から、自律神経のバランスをくずした思春期の子供たちが例年よりも多く見受けられました。もちろん自律神経のバランスをくずしたと言って受診するわけではなくいわゆる不定愁訴でやってきます。頭痛、朝起きれない、吐き気、腹痛、ふらふらする、だるい、動悸、息苦しいなどさまざまです。親も子供も何か病気があるはずだと思って当院を受診することがほとんどです。

頭痛・めまいならば眼科・耳鼻科・CT や MRI などの画像診断、吐き気や腹痛ならば便潜血のチェックしたり消化器科にお願いして胃カメラをすすめることもあります。（ありがたいことに当院消化器科の先生は、子供でも小児科立会いのもと早急に検査してくれます。）動悸についてはホルター心電図や負荷心電図などの検索も進めていきます。その他、甲状腺疾患などの除外のため血液検査も施行します。

また小児科では発達障害がないかのチェックもしつつ、起立性低血圧の診断にむけて起立試験を行います。ご存じのように昔の起立性低血圧診断の起立試験から新起立試験という方法にかわり診断しやすくなりました。また心身症としての面も評価しやすいようなチェックリストができています。

これらの心身症を疑わせる子供たちと話していると、人間の根本の食べる・寝る・排便するという3快が大人が予想する以上におろそかになっていることが多いようです。朝ごはんを食べるといっても一人でお菓子パンを食べていたり、スマホなどのメディアとの接触時間がながいため夜更かしになっていたり、自分がいつ排便したのかどんな周期で排便しているのか知らず頑固な便秘になっていたり・・・。また友達とのつながりでがんじがらめになっています。

不定愁訴でやってくる子供たちのなかにはすでに不登校になっている子供もあり、学校に通うことが目標というより、今後いかに社会につながりを持って社会のなかで生きていくかを模索しながら日々の診療にあたっていくよう心掛けていきたいと思っています。

## ● 病診連携室連絡先 ●

フリーダイヤル 直通電話 0120-53-6196 ( 平日 8:15~19:00、土曜日 9:00~12:00 )

FAX 0120-53-8459

内科系当直ホットライン:070-5442-5500 ( 平日 17:00~8:15 及び土・日・祝 )

外科系当直ホットライン:070-5444-6745 ( " " )

# 市民公開講座を開催しました

平成27年1月24日（土）に、尾張旭市保健福祉センター4階シアタールームにて旭労災病院市民公開講座を開催し、43名の参加者にお集まりいただきました。

瀬戸旭医師会の後援のもと「ご存知ですか？お薬のこと」をテーマに、司会を宇佐美副院長が行い、森皮膚科部長と西尾薬剤部長が講演を行いました。



森皮膚科部長



西尾薬剤部長



宇佐美副院長

